

令和元年度 岡山県立岡山大安寺中等教育学校 学校評価書 (別紙) 最終評価

学校経営重点目標	具体的方策	担当部署	評価指標・評価基準	自己評価(中間)		自己評価(最終)		関係者評価
				達成状況	評価	達成状況	評価	
1 国際バカロレアの教育プログラムの研究を核として、グローバル社会に必要とされる資質能力を育成する。	(1) 国際バカロレアの教育プログラムの趣旨を踏まえた「総合的な学習の時間」等のカリキュラム開発と「深い学び」につながる授業改善に取り組む。	総合研究開発室	A:各学年の年間計画が確立し、一部施できている。 B:各学年の年間計画が確立している。 C:各学年の年間計画が未完成である。	年間計画は未完成であるが、各学年において計画の一部実施している。 目標達成のために、総合的な学習(探究)の時間における課題研究を軸としたカリキュラムの再構築を目指し、縦横のつながりを意識した取組を行っている。横のつながりでは、大安寺版の概念を用いて一覧にしたものを作成し、来年度初めに完成させたい。	未	6学年の縦のつながりを意識した総合的学習(探究)の時間の年間計画を作成し、各学年において一部実施した。横のつながりを意識するために大安寺版重要概念7項目を決定し、カリキュラムマップ案を作成した。	未	A
	各教科の授業において単元づくりと教科横断的な授業の実践の取組を行い、カリキュラム開発に繋げるために、国際バカロレアの教育手法を取り入れた授業互見を行う。 ・授業の最初に目標を明示し、最後には必ず振り返りを行う。 ・学校が目指す生徒像を示し、教科の繋がりを意識させる。 ・授業の中でのコミュニケーションを重視し、対話的な授業を展開する。	国際バカロレア研究委員会 授業力向上委員会	A:国際バカロレアの教育手法を取り入れた授業互見を年2回実施し、かつ十分な協議が実施できている。 B:国際バカロレアの教育手法を取り入れた授業互見を年2回実施し、それについて協議ができていない。 C:国際バカロレアの教育手法を取り入れた授業互見を実施し、それについて協議ができていない。	授業観察シートを改善し、各授業者が単元目標や重要概念を意識して授業計画を立てることができるよう工夫した。第1回授業互見の後に異教科異学年グループによって協議を行い、概念の共通理解を図った。大安寺授業スタンダードを提示し教員間の共通理解を図り、さらに学習者像ポスターを各教室に配備し、授業目標が明示しやすい環境を整えた。 第2回授業互見に向けて教員アンケートを実施し、大安寺版学習者像と、重要概念の選定を進めている。	未	年2回の授業互見を実施し、1回目は概念を個人で設定し、2回目は学年共通概念を設定した。学年共通概念を複数教科で使用することによって学習内容の深まりやつながりを目指した。 学習指導要領と本校の教育目標に照らし合わせた教員アンケートを実施し、「大安寺版学習者像」「大安寺版重要概念」を選んだ。本校独自の概念として「俯瞰する」を新たに加えた。学習者像は教室で生徒に提示しやすいようにマグネットシールを貼るなど、工夫を加えた。 概念理解による授業について生徒アンケートを実施し、その結果を集計中である。アンケートの実施に際して説明ポスターを作成、掲示し、概念理解の重要性について生徒の理解を深めるよう務めた。	未	A
	(2) 課題研究等を通して、探究的な学習者を育てる。	グローバル教育推進室	生徒達成度 A:平均80点以上 又は 5段階評価の4以上 B:平均60点以上 又は 5段階評価の3以上 C:Bに満たない	4年生「はばだけ！大安寺生」「教えて！先輩」での成果発表生徒達成度:80.6%	A	4年生「はばだけ！大安寺生」「教えて！先輩」での成果発表生徒達成度:80.6% 3年生「海外へ留学経験のある大学生及び留学生との交流会」生徒達成度(段階平均):4.1 2年生「岡山大学留学生との交流会」: 1/29(水)・30(木)実施	A	A
	各学年のグローバル行事において、事前指導で生徒に活動のねらいを伝える。それを踏まえ、生徒が各行事の自己目標を立てる。行事終了後、生徒が、自己目標に対する達成度を自己評価(点数で評価)し、それを集計する。 昨年度 4年生:A(85.2%) 3年生:A(80.5%)	グローバル教育推進室	生徒達成度 A:平均80点以上 又は 5段階評価の4以上 B:平均60点以上 又は 5段階評価の3以上 C:Bに満たない	4年生「はばだけ！大安寺生」「教えて！先輩」での成果発表生徒達成度:80.6%	A	4年生「はばだけ！大安寺生」「教えて！先輩」での成果発表生徒達成度:80.6% 3年生「海外へ留学経験のある大学生及び留学生との交流会」生徒達成度(段階平均):4.1 2年生「岡山大学留学生との交流会」: 1/29(水)・30(木)実施	A	A
	(前期)教育相談事前アンケートやhyperQU検査等のいじめ悩みに関するアンケート調査の結果分析をした上で、分析を活かした生徒面談や支援を行う。 (後期)ASSESSやいじめ悩みに関するアンケート調査の結果分析し、結果を活かした生徒面談や支援を行う。	教育相談室	A:アンケートとQU検査等を分析した上で、両方の結果を活用した面談・支援ができた。 B:結果分析を元にどちらかの機会に結果を活用した面談・支援ができた。 C:活用できなかった。	前期・後期共に、hyperQUやASSESS、いじめ悩みアンケートの結果について、学年会議等で分析を行い、よりよいクラスづくりのために考えられる方策について話し合うとともに、個別に支援の必要な生徒に関しては学年団で様子を見るよう確認し、個別に声を掛けるようにしているが、個別の面談までに至っていないケースも見られる。	B	前期・後期共に、hyperQUやASSESS、いじめ悩みアンケートの結果について、担任や学年の教員で分析を行い、個別に支援の必要な生徒に関する情報交換や対応を中心に分析を行うことができた。また、個別に支援の必要な生徒については、学年団で様子を見るよう確認し、個別に声を掛けるようにしているが、個別の面談までに至らなかったケースも見られた。	B	B
	(前期)「品格教育」や「PBIS」「SEL」「ピア・サポート」等の活動を教科や学年団と協力して進める。 (前期・後期とも)「相談室便り」を活用した心を育む情報提供を行う。また、特別支援・人権に配慮した環境づくりに努める。	教育相談室	A:各学期ごとに行われる「学校生活や友人関係に関するアンケート」において、「学校が楽しい」「みんなで何かをするのが楽しい」という質問項目において、「よくあてはまる」と答えている割合が、いずれも60%を越える。 B:同項目において、いずれかが60%を越える。 C:同項目において、いずれも60%を下回る。	品格教育に関しては校内にポスターを貼ったり、第二相談室前に生徒により作成された看板等を置くなどの取組を行っている。また、相談室便りについても、月1度ペースで発行している。 第1回学校生活アンケートの「学校が楽しい」「みんなで何かをするのが楽しい」という項目の「よくあてはまる」との回答結果は、前期課程はいずれも60%を越えているが、後期課程は30%程度となっている。原因として考えられることは、アンケートの他の項目から推測すると、学習に関するストレスや悩みではないかと考えられる。後期課程でのサポート体制について検討が必要である。	C	品格教育に関しては校内にポスターを貼ったり、第二相談室前に生徒により作成された看板等を置くなどの取組を行っている。また、相談室便りについても、月1度ペースで発行している。 学校生活アンケートの「学校が楽しい」「みんなで何かをするのが楽しい」という項目の「よくあてはまる」との回答結果は、前期課程はいずれも60%を越えているが、後期課程は30%程度にとどまった。生徒自身の不安や悩みの解消に向けた支援とともに、PBISやピアサポートなどの予防的な取り組みも増やしていきたい。	C	C
	(3) コミュニケーションを深め、互いの違いを認め合う、一人一人の個性を生かした集団づくりを行う。	生徒課	行事後にアンケートを実施し、それをもとに総合的に評価する。 対象行事 1年…球技大会・オリキャン・白鷺祭 2年…球技大会・長距離ウォーク・白鷺祭 3年…球技大会・白鷺祭 4年…球技大会・白鷺祭 5年…球技大会・長距離ウォーク・白鷺祭 6年…球技大会・白鷺祭	1学期の行事である球技大会(全学年)、オリキャン(1年生)、長距離ウォーク(2・5年生)についてのアンケートを行った。 「よくできている」「だいたいできている」が全校の97.5%であり、ほとんどの生徒が積極的に行事に参加している。 休みがちな生徒も、各行事には参加できる者もいる。2学期の行事についてもアンケートを実施し、結果を踏まえて、より積極的に参加し、より仲間と協力して行事をつくり上げることができるようしていきたい。	A	1学期球技大会…96.7% オリキャン…98.1% 長距離ウォーク…97.7% 白鷺祭…96.0% 2学期球技大会…96.4% 全体…97.0% 昨年度も高い数値であったが、今年度は全ての行事について、昨年度を上回った数値となっている。生徒は積極的に、協力しながら取り組むことができており、行事を行う中で、人間関係等でトラブルが発生することもあるが、生徒の主体性を尊重しながらも適切に教員が介入することでより良い集団づくりを図りたい。	A	A
	保健委員としての日常活動(保健便りの作成や各種検査など)や白鷺祭での準備、体育の部での教護活動などにおいて、異学年で協力して互いをサポートしながら各活動、行事をやり遂げ、かつ十分満足いく結果を出す集団を育成するため、保健委員会や日々の活動の中で声かけや指導を行う。	厚生課	保健委員に対して、半期ごとにアンケートを実施し、その結果を基に総合的に評価する。 保健委員の達成度 A:95%以上 B:90%以上 C:Bに満たない。	保健委員に、次の3点についてアンケートを実施した。 ① 普段の活動における達成度 ② 白鷺祭文化の部での異学年での活動達成度 ③ 白鷺祭体育の部での異学年での活動達成度 達成度は次のとおりになった。 ① 83% ② 46% ③ 58% 平均62% 普段の活動においては異学年との活動には取り組んでいないので、達成度は各学年ごとに高くでた。しかし、白鷺祭での学年を超えた準備や教護活動等の異学年活動については、まだまだという結果になった。前期委員の中には先輩委員と一緒に取り組める活動について肯定的意見が多かった。後期委員も同様に「先輩と雑談しながら行う活動は楽しい」などの肯定的意見が多かったが、中には異学年活動自体について否定的な意見も見受けられた。この否定的意見の理由としては、「そもそも異学年交流の意味が分からない」「下の学年の子が怖い態度をとってきた」等があった。生徒一人一人の考えが違ってくる中で異学年交流に関する声かけや指導の難しさを感じた。	C	保健委員(前期/下半年)に、次の2点についてアンケートを実施した。 ① 普段の活動における達成度 ② 異学年での活動達成度(下半年のみ) 達成度は次のとおりになった。 ① 91% ② 22% 平均 57% 普段の活動においては上半期と同じく達成度が高かった。普段から真面目にコツコツと活動に取り組んでいる姿が1年間を通してみられたことはとても良かった。ただ今回の重点目標③を異学年交流を推進するという視点から方策を講じたことは数字に表れず残念だった。特に下半年においては「白鷺祭など大きな行事もないので」数字が伸びないことはある程度予想できたので、②の項目に「下半年には異学年交流をするような活動がなかった。」という項目を設けたところ、65%の生徒が選択した。またその選択をした生徒に「下半年で異学年交流をするような活動について」という記述を求めた所、「学校保健安全委員会総会の準備」「ミニコラム制作」「ポスター制作」「情報交換を密にして学校全体を健康に」等の意見が多数出てきたので来年度の委員会活動作成に役立てたい。なお、評価基準の数値設定が高すぎたように思うので、もし来年も取り組むとするならば変更したい。	C	B

学校経営重点目標	具体的方策	担当部署	評価指標・評価基準	自己評価(中間)		自己評価(最終)		関係者評価
				達成状況	評価	達成状況	評価	
2 高い目標を掲げてチャレンジする生徒を育成、支援する。	(1) 大学等と連携した研修等を通して、高い進路意識や志望を持たせる。	進路指導課	学習時間・志望校調査・進路アンケートなどの評価指標の内容をもとに総合的に評価する。 A: 学習時間・志望校調査・進路アンケートなどの結果が望ましい状況になっている B: Aに満たない C: Aに著しく満たない	進路アンケートは未実施のため現段階で評価することは難しいが、志望校調査によると4～6年生は高い志望を持つようになってきており、ここ数年の取組の成果が出始めているのではないかと考えている。	未	学習実態調査では、すべての学年で前回の勉強時間数を上回っている。また、志望校調査でも以前より高い進路目標を掲げる生徒の数が増えている。進路アンケートにおいても多くの学年で主体的に勉強していると答えている生徒が多い。各種コンテストに挑戦し、成果を残す生徒も出てきている。このことから総合的に判断して、目標は達成できていると判断する。	A	
	(2) 各種コンクール、セミナーへの参加を促し、他校生徒と積極的に交流させる。	グローバル教育推進室	各種行事に参加した生徒に、その取組や様子を聞いて、総合的に評価する。	韓国との交流事業へ後期課程2名と前期課程8名が応募し、そのうち後期課程2名と前期課程2名が選ばれた。後期課程は7月に韓国を訪問し、他校の生徒とともに異文化に触れる充実した体験をしてきた。前期課程は11月実施予定である。スピーチコンテストには後期課程3名と前期課程9名が応募し、これまで行われたものでも上位入賞を果たしている。多くのコンテストはこれから行われるので、しっかりと準備をさせていきたい。	未	スピーチコンテストには、昨年度より多い8名の生徒が参加した。出場に向けて事前指導を行い、上位入賞を果たした生徒もいた。	A	
	(3) 英検準1級レベルの、国際的に通用する英語力を身に付けさせる。	英語科	授業中の生徒の様子を観察するなどして、総合的に評価する。	毎日の授業の中で、4技能を伸ばすための様々な活動を取り入れている。これまでに、スピーキングテストを行った学年もある。英語科教員の間で授業見学も行い、色々なアイデアを共有しながら、継続的に指導していく。	未	授業の中で4技能を伸ばすための様々な活動を取り入れた。スピーチ、インタビューテスト、ディベートなどの活動も行った。また、前期課程から調査でもライティングのテストを行った。英語科教員の間で色々なアイデアを共有しながら指導を行った。	A	
		英語科	昨年度より開講数を増やす。 A: 各検定につき3回以上実施 B: 2回(昨年度と同じ) C: Bに満たない	実用英語技能検定以外の外部検定試験は12月実施予定であり、対策講座はこれから行う予定である。	未	各種外部検定に向けて対策講座を設けるなど、事前指導を行った。 IELTS: 6回 Cambridge英検: 6回 各回の受講者は平均3～4名程度であった。また、Speaking指導は受講生全員に対して、1回ずつ行った。	A	
		国際バカロレア研究委員会 授業力向上委員会	A: 外部検定試験の受験結果で受検者の4割がCEFR B2、5～6割がB1になる。 B: 外部検定試験の受験結果で受検者の3割がCEFR B2、5割以下がB1になる。 C: 外部検定試験の受験結果で受検者の2割がCEFR B2、4割がB1になる。	外部検定は12月実施予定で、現在は受験者を募集中である。 TOEFLとIELTSの枠は去年より若干増加しているため、それが去年の結果とどうつながっていくかみていきたい。	未	28人の応募者のうち現段階で27人が受験を終了し、そのうち11人の結果が得られている。(未受験者は3月にTOEFLを受験予定、残りの17人の結果は2月上旬までに得られる) 11人の内訳はC1 2名、B2 6名、B1 3名である。17人のうち3名以上はB2を取得できそうであり、目標の4割を達成する予定である。	A	
3 新学習指導要領(前期課程:平成33年度(令和3年度)から全面実施、後期課程:平成34年度(令和4年度)から年次進行で実施)に対応した教育課程編成を行う。大学入試改革にも対応できるものとする。	(1) 道徳科及び「総合的な探究の時間」を円滑に先行実施する。	道徳教育推進委員会	学年道徳担当を中心に授業改善への意識を高める。従来の「道徳の時間」から、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う「考える道徳」「議論する道徳」へと転換できるよう授業実践していく。 (評価) 生徒がいかに成長したかを積極的に受け止め認め、励ますような評価をできるようにする。	道徳の授業に対して、大安寺スタンダードを活用し、教科書を使用した授業も少しずつ慣れてきている。 毎時間評価シートを記入する時間を確保することで評価物の蓄積もできている。今後はその評価物を学年末にまとめられるよう研究していきたい。	B	第3学年では昨年に比べ授業時間が10時間程度増加し、授業時間をしっかりと確保することができた。 毎時間の評価シートの蓄積と学期の振り返りシートは全学年統一して行うことができている。 評価については今後行う予定で、参考の文例も作成した。	B	
	(2) 先行学習する科目の見直しを行い、6年間を見通した教育課程を編成する。	教務課	教育課程研究委員会を計画通りに開催し、新教育課程の進捗状況として、 A: 12月末に前期・後期ともに仕上がっている。 B: 12月末までに前期部分が仕上がっている。 C: Bに満たない。	8月末に第1回教育課程研究委員会を開き、現在、各教科、各学年で検討中である。第2回は10月中旬に開き、12月中には新教育課程の案を作成したい。	C	前期課程の新教育課程は完成したが、後期課程については、大学入試に関する内容が確定していないため、次年度、情勢を見ながら検討し、完成させたい。	B	
4 業務の進め方を見直し、時間外業務時間を前年度比で10%削減する。	最終退校時刻を原則20時とする。20時以降業務を行う必要がある場合は、定時に管理職に業務内容や目安の時間を申告する。 年間3回(全体)、月1回程度定時退校日を設定する。 定期考査中などを活用し、学年単位などで取り組む。 学校行事の見直し、職員会議の時短、運動部活動ガイドラインの遵守	管理職主幹教諭	時間外業務時間が昨年度比で A: 10%削減できた。 B: ほぼ現状維持であった。 C: 昨年度より増加した。 ただし、職員アンケートの結果も考慮して評価する。	時間外業務時間(平均)4～8月 H30年度 52.42時間 R元年度 52.78時間 微増 管理職による「働き方改革の実現に向けて」というアンケート実施中 学校評価アンケートに関連項目を追加するよう計画	C	時間外業務時間(平均) 9～12月 H30年度 56.6時間、R元年度 49.5時間 4～12月 H30年度 54.0時間、R元年度 51.2時間 昨年比94.8%(5.2%削減) アンケート結果 各課・室等の業務の効率化 55%(－18) 校務の整理・効率化(個人) 64% 時間外業務時間(平均)は夏以降減少傾向にあり、5%ほど削減できたが、アンケートの結果は低く、更に意識改革を進めていかなければならない。	B	
	昨年度C							